はじめに

公立千歳科学技術大学
理事長・学長　宮永喜一

令和 3 年 4 月 2 日に、本学の入学式が挙行されました。北ガス文化ホール（千歳市民文化センター）における開催でしたが、参加の対象者を大きく制限しての入学式でした。前年度から、世界的に流行している新型コロナウィルス感染症の影響は大きく、その対策が継続して実施されている状況下での式典でした。前年度に比べると、ワクチン接種が、高齢者を中心に始まり、多少はウィズコロナの状況が進んではいましたが、大学における感染症対策は、前年度とほぼ同様で、授業は、オンラインが中心であり、対面での対応が必要な実験や実習などは、タイミングを見計らっての実施となりました。従って、本学における行動指針も、教職員や学生に対して、可能なら自宅などからのオンラインによるテレワークが推奨となり、引き続き新型コロナウィルス感染症の影響が、暗い影を落とす年度となりました。

前年度までは、副学長という立場で、本学の教育・研究・地域貢献に関する事業を進めておりましたが、令和 3 年 4 月 1 日からは、理事長・学長として、それらの事業をより発展的に、推進する立場となり、コロナ禍という状況ではありましたが、ウィズ・アフター・コロナを見据えての大学運営となりました。社会全体で、オンラインツールの使い方や、活用の仕方も徐々に慣れてきており、学内外の、多くの会議がそのツールで実施されました。オンラインツールは、場所の制限がないため、時間の調整がつく場合には、すぐに様々な形式の会議が開催可能で、大変便利であり、非常に強力なものです。例えば、大勢の聴衆を集めての講演会や、国際会議でのプレナリースピーチなどは、大変適しています。一方で、様々な議論を要する会議では、数名での参加が限界で、大勢での検討会などには向いていません。10 月に開催した本学主催の国際会議 The 21st Chitose International Forum on Science and Technology (CIF21) では、基調講演やオーラルスピーチ講演を、オンラインとオンサイトを同時に行うハイブリッド形式とし、ポスターセッションは、オンサイト形式で実施しました。今後は、いろいろな形式の会議を、適切な方法で実施する形式が、広く一般的に導入されるのではと感じています。

理工学部の教育では、新たに、全ての学生が数理・データサイエンス・AI に関する基本的な内容の習得を目標とし、全学での教育プログラムとして「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」を開講しています。これらの科目は、文部科学省「数理・データサイエンス・ＡＩ教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されたものです。本学のカバーする学問領域は、多岐にわたっており、生物・化学・物理・電子・通信・情報に関連する領域を、学生が取捨選択し、複合的に学びます。一方で、今後の技術として、数理・データサイエンス・AI などは、どの領域でも必要で、活用すべきものとして、全員が、その基本を学びます。今後は、より専門に近い内容を必要とする学生向けに、応用レベルの科目も実施してゆく予定です。

公立大学として、まだ始まったばかりではありますが、複雑であっても、多様性のある内容で、新しい教育・研究活動が推進・加速されるものと感じています。今後も教職員一丸となって教育、研究、地域貢献に邁進してまいりますので、忌憚のないご意見、ご助言をいただければ幸いです。